

第1回上信越高原国立公園須坂・高山地域管理計画検討会

議事要旨

1. 開催日時 平成 25 年 10 月 1 日（火）13:30～16:00
2. 開催場所 環境省長野自然環境事務所 会議室
3. 出席者 委員：伊藤委員（座長）、駒津委員、関谷委員、土屋委員、渡辺委員（五十音順）
関係行政機関：北信森林管理署、長野県（環境部自然保護課、長野地方事務所環境課）、須坂市（環境部生活環境課）、高山村（産業振興課）
(順不同)

4. 議事

- (1) 本検討会について
- (2) これまでの経緯
- (3) 管理計画改定案について
- (4) 地域連携会議について
- (5) 今後の進め方

5. 議事経過

議事（1）について事務局より説明後、伊藤委員が座長に選任され、その後の議事進行を行った。議事（3）及び（4）について事務局より提案を行い、概ね了承された。その他の議事については事務局説明に基づき、議論がなされた。

なお、主要な発言は以下のとおりである。

（1）本検討会について

意見、質問なし。

（2）これまでの経緯

<看板・標識について>

委員：行動指針案の「国立公園であることが分かりやすい表示や看板を設置」について、国立公園であることを表示するのは良いことだが、環境省としては、特別保護地区、特別地域等のゾーニングを国民にどこまで周知する考えか。

事務局：ゾーニングをどこまで周知するのか考え方が整理されておらず、今後の課題と認識。

委員：須坂地域において、エントランス標識が、峰の原へ至る国道にはあって、五味池破風高原及び米子大瀑布にないのはなぜか。

事務局：エントランス標識は、ここから国立公園だと認知してもらうために公園境界付近に設置された標識。公園内の各興味地点で国立公園を周知する標識は、別の事業で対応しているが、その採択要件が厳しい。環境省では全てを整備できないので、今後はソフトを含め地域の方々と役割分担をしていきたい。

委員：植物採取等、規制内容の啓発標識も重要である。

委員：地域毎の標識デザインの統一化は今後の議論か。

事務局：地域独自のデザインについて、地域の方々と議論できれば、管理計画に位置付ける等の取組はできるし、やっている地域もある。

委員：地域毎ではなく上信越高原国立公園全体では如何か。

事務局：上信越高原国立公園は非常に広く一つに統一することは困難。また、山田温泉、峰の原高原等の狭い地域での検討も可能。

委員：四阿山系くらいの地域単位で、統一したデザインにできるとよい。

(3) 管理計画改定案について

<協働型管理運営体制について>

委員：「第2章 3. 将来目標達成のための仕組みづくり」の中に「国立公園に関わる様々な主体が参加した枠組みを構築し」とあるが、「枠組み」について具体的に書かないのはなぜか。

事務局：今年度の地域連携会議で、来年度以降の「枠組み」について議論されるため、どのような「枠組み」になるか現時点では未定であるため。

委員：国では地域との協働で国立公園の管理運営を行うという方針が定まったのか。あるいは、今回はテストケースなのか。

事務局：国立公園の管理運営に地域との協働が不可欠というのは既定路線。しかし、その協働型管理運営体制の仕組みをどのようにつくるかは議論の途中。須坂・高山地域はテストケースではないが、手探り状態で取り組んでいるところ。

委員：これまで行政が担ってきた形から、自分たちの地域のことは自分たちで考えていくという方向に変わってきた。ただし、何をやるにもお金はかかるので、どこまできちんとした見通しと組織ができるかというところにかかっている。

<利用規制について>

委員：現在、高山地域ではマウンテンバイク、トレイルランニング、ジップライン等利用形態が多様化している。現行の菅平地域管理計画書にはマウンテンバイクの乗り入れを行わないように指導する等が書かれているが、規制だけでなくどこでなら楽しめるかの情報提供も含めて利用者への指導の方法を考えていかなければならない。

委員：旧三国街道では旅館等多様な地域関係者が議論して歩道づくりを行っている。ルールづくりは、「駄目」と規制するより、「このところはこういう利用でお願いしますか」という約束事づくりのほうが守られるのではないか。地域連携会議で議論するとよい。

事務局：改定案では利用規制等の行政指導の方針は載せない予定。しかし、地域連携会議のような場で議論し、地域独自のルールが合意できれば、管理計画に載せることも可能。内部でもあまり議論されていないが、ルール、行政指導方針等を決めるのであれば、

何らかの形で公にすることも大事。その方法もあわせて検討することが必要。

<管理区域について>

委員：「第6章（1）四阿山系を中心とした一体的管理」において、現在分割されている菅平管理計画区と須坂管理計画区を統合し、将来的に四阿山系管理計画区（仮称）とする案について、須坂地域は既に嬭恋村と観光面で連携しているので、将来的に四阿山系として管理計画区を統合したほうがよい。

委員：一概に比較は出来ないが、須坂・高山地域における協働型管理運営の議論は、全国でも先端を行っている。四阿山系あるいは志賀高原に分割統合されると、先端ではないこれらの地区に足を引っ張られないか懸念される。新たな管理計画区においても協働型管理運営の議論ができればよいが、今はそれが担保できない。

<ユネスコエコパーク等について>

委員：国立公園に直接関係がなくても地域に関係のある「ユネスコエコパーク」、「信州山の日」等は、検討会及び地域連携会議に資料を出して幅広く議論されたい。

委員：現在、須坂市では「米子大瀑布」を国の名勝に指定しようとしている。

（3）地域連携会議について

委員：外部の人間からすると協働型管理運営体制は形よくみえるが、実際に体制を担うのは地域の方々なので、地元の委員や行政はどう感じているのか伺いたい。

関係行政機関：今後のフィードバックをどうやっていくか、地元の行政がその役割を果たしていかなければならないと思っている。

関係行政機関：これまでそれぞれの主体が個別に活動してきたので、地域連携会議で一緒にやっていくとなった時に、核となる場所が必要になるが、実際にどのようにやっていくのか心配している。環境省や長野県にバックアップをしてもらわないと続かないのではないかと。

関係行政機関：昨年度から時間が経過しており、またメンバーも入れ替わり等がある中で、当時の熱い思いをもう1度起こさせるのは難しいと感じる。

委員：実際に活動されている方、利用者代表、教育関係者など地域連携会議に参加するメンバーをもっと広げたほうが良いのではないかと。

委員：メリットを受ける人や、これまで環境維持の活動を担ってきた人たちに会議に出てもらう。現在環境維持の活動を担っている人を評価し、さらにこれから担う人を見極めながら、どんな人に集まってもらうか考えないと将来計画はできにくい。

（4）今後の進め方

委員：メンバーの選定や日程を決めるときは市や観光協会に相談して欲しい。また、会議開催案内等の文書表現が堅いので、わかりやすい文面で作って欲しい。